

お子様のいるご家庭へ
肺炎マイコプラズマって
なあに？



監修：高崎小児科医院 高崎好生 先生

01

肺炎マイコプラズマ
とは??

画像提供／大阪市立大学大学院
理学研究科・宮田真人教授

肺炎マイコプラズマ (*Mycoplasma pneumoniae*) は細菌の一つで、感染すると
かぜ様症状、気管支炎、マイコプラズマ肺炎などを起こします。好
発年齢は6～12歳ですが、乳幼児や成人にも感染します。普通の
細菌とは構造が異なるため、効果のあるおくすり(抗菌薬)は一部
に限られています。

■最近では大流行こそないものの、患者数は少なくありません。一年を通して
発生しますが、秋から冬にかけて増える傾向があります。

学校や家庭などで主に咳のしぶきを吸い込んだり(飛沫感染)、患者と身近で
接触することで感染するといわれています。

肺炎マイコプラズマ感染症は、見逃されて長引くと、場合によっては入院が必要
になることもある、やっかいな病気のひとつです。



02

肺炎マイコプラズマ 感染症の症状は？

感染後2～3週間くらいの長い潜伏期間を経て、はじめは発熱や全身倦怠、頭痛などかぜの症状を訴えます。3～5日後から乾いた咳が出はじめ、徐々に強くなり、解熱後も3～4週間続くことがあります。

多くの人は肺炎マイコプラズマに感染しても気管支炎ですみ、軽い症状が続きますが、一部の人は肺炎となり（感染者の3～5％程度）、重症化することもあります。

一般的に、小児の方が軽くすむといわれています。



03 肺炎マイコプラズマ 感染症の診断法

検査方法としては、のどから採取した検体（咽頭ぬぐい液や痰）から病原そのものを直接検出する方法が確実とされていますが、とても時間がかかります。また、血液中の成分（抗体）を検査する方法もありますが、採血が必要であり、またそれだけで診断することが難しいことも多いようです。

最近では、のどの検体を使って肺炎マイコプラズマの遺伝子を検出する方法や、より簡便な迅速診断キットが使われるようになってきました。しかし、実際に肺炎マイコプラズマに感染していても、のどには菌体がほとんど存在しないこともあり、患者の年齢や病気の経過・症状、レントゲン所見などから総合的に医師が判断します。



04

迅速診断キットの 有用性

肺炎マイコプラズマ感染症はかぜの症状からはじまりますが、正確な診断がつかない場合、長引いたり重症化の恐れがあり、またおくすりの処方を決める上でも早期診断が望めます。より正確な検査には、時間や特別な設備が必要となるため、外来で簡単に検査できる迅速診断キットも有用といわれています。



05

肺炎マイコプラズマ
感染症の治療

肺炎マイコプラズマ感染症は、基本的には自然治癒する病気ですが、長引くと重症化する恐れもあるため、治療する場合にはおくすり（抗生物質）が処方されます。

まず第一にはマクロライド系抗生物質が選択されますが、近年、この薬が効かないタイプも増えており、飲み始めて2～3日経っても熱が下がらない場合は、ほかの抗生物質に変更する場合があります。（マクロライド系抗生物質には苦味のあるものが多いため、お子様に飲ませる場合はアイスクリームに混ぜたりするといいでしょう。なかなか熱が下がらない、薬が飲めない、ぐったりしている場合などには入院して治療を行うこともあります。）



06

肺炎マイコプラズマ 感染症の予防

肺炎マイコプラズマ感染症に特別な予防法はありません。感染経路はインフルエンザ等と同じですので、普段から手洗いやうがいを励行し、また十分な睡眠と栄養を摂ることが重要です。とくに流行している時期にはマスクをすることも効果的です。

家族に患者がいる場合は、可能な限り、濃厚な接触は避けたほうがいいでしょう。





かかったかな？と思ったら…
何よりも早めにかかりつけの
医療機関を受診しましょう。
安静・休養・睡眠を十分にとり
水分補給を忘れずに。

病院・診療所名



株式会社 タウンズ